

## 難病相談支援センターをご存じですか？

病気の治療の相談だけでなく、精神的・経済的・社会的にも悩みや不安を抱える難病患者の皆さんや家族が、安心して療養生活を送れるよう支援を行う窓口です。治療や介護、就労などの相談に応じています。相談は無料（電話、FAX、面接、家庭訪問）。プライバシーは守られますので、気軽にご相談ください。



**場所**  
小倉北区馬借一丁目7-1  
総合保健福祉センター6階  
☎522・8761 ☎533・6356

**受付時間**  
月～金曜日（祝・休日、年末年始は除く）の8時30分～17時15分

問 難病相談支援センター ☎522・8761

毎年2月の最終日は「世界希少・難病性疾患の日（RDD）」です。難病への理解を深めてもらう日として、市でも啓発活動を行っています。



▲小倉駅・黒崎駅周辺ライトアップ（画像は小倉駅周辺）



▲総合保健福祉センターの啓発横断幕

## 難病医療講演会「パーキンソン病の診断と治療・運動プログラム」

2月29日（木）13時30分～16時、総合保健福祉センター2階（小倉北区馬借二丁目）で、定100人。☎2月20日までに[ネット](#)から☎533・6356で。

当日は、会場で「チューリップ手帳」を配布します。この手帳は、パーキンソン病患者を中心に関係機関などが情報共有できるようにするもので、関係者全体で患者を支えることを目的としています。

難病相談支援センター、各区役所保健福祉課などでも配布しています。詳しくは[問](#)を。



## 難病（希少・難治性疾患）とは？

発病の仕組みが明らかでなく、治療法が確立していない、長期療養を必要とする希少な疾病です。北九州市には8598人（※）の患者がいます。症状に個人差があり、見た目に分かりにくいいため、周囲の理解が得られず、本人は不安を抱えていることがあります。※令和5年3月31日現在の特定医療費（指定難病）受給者証所持者数

## コラム 健康になる技術

今号では「感情」についてお伝えします。健康になるためには、日々の健康を意識した小さな意思決定が大切です。その連続がやがて日々の健康習慣につながります。疲れ過ぎていたり、ストレスを感じていると、注意深く考

えられなくなることがあり、健康に良くない習慣に戻りやすくなります。ストレスがあることで、たばこや飲酒の量が増えることも分かっています。

感情と仲良くすることは健康習慣を身に付ける上で重要です。自分の普段の感

問 保健福祉局健康推進課 ☎582・2018

情について振り返り、なるべく疲れやストレスのない穏やかな感情を維持することをお勧めします。公衆衛生学者・パブリックヘルスストラテジスト

（北九州市アドバイザー）  
林 英恵



## 市制60周年 北九州市 CITY OF KITAKYUSHU みらいつなぐ 北九州 60th

### まちの総合力を高め、未来に向けて挑戦する都市へ

市制60周年は人の年齢にたとえると還暦です。この節目となる年に、「みらい つなぐ 北九州」をキャッチフレーズに1年間にわたり記念事業を実施してきました。主な記念事業や「北九州市の未来へ向けた思い」をご紹介します。

#### 市制60周年を記念してさまざまなイベントを開催しました



◀日本初となるブレイキンの世界大会「ブレイキン・フォー・ゴールド・ワールドシリーズ」を開催しました。写真提供：公益社団法人日本ダンススポーツ連盟



◀将棋界の最高棋戦「竜王戦」を市指定有形文化財である旧安川邸で開催しました。



◀4年ぶりとなる歌舞伎公演「平成中村座」を開催しました。クライマックスは借景に小倉城が現れる華やかな演出でした。



◀映画などの撮影の誘致・支援に取り組んできた北九州市で初となる「北九州国際映画祭」を開催しました。

市制60周年を記念して、北九州市が誕生してからこれまで、市民の皆さんと歩んできた歴史を振り返ります。市制60周年の最新情報はコチラから▶



### 北九州市の未来に向けて

北九州市では現在、今後のまちづくりの方向性を示す「新たなビジョン」の策定を進めています。

北九州市には、国内外への玄関口となる地理的優位性、人情や人と人のつながり、ものづくりなどの技術、陸・海・空の交通基盤など多くの資質や能力があります。これらを最大限に発揮するとともに、市政60年間の実績も引き継ぎながら経済成長を実現し、都市の総合力を高めることで社会課題の克服や人口増加、まちの発展に挑戦します。

そして、その経験を同じ課題を抱える日本国内や世界に向けて発信し、貢献することで、多くの人や企業が集まる活気あふれるまちにしていきます。

問 企画調整局総務課 ☎582・2440